

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
32

振興協議会だより

〔発行日〕平成30年8月30日
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕025-765-1600



新会長 御挨拶



新会長と布岩

返しのつかなくなる可能性があります。ジオパークは持続可能性を理念に掲げています。私の政策の柱として文化を軸とした観光の振興がありますが、持続可能性を考慮した地域資源の観光活用を図っていきたくと考えています。

上村前会長はジオパーク活動の中で、特に子ども達の郷土教育に素晴らしい成果を上げてきたと思います。私も二児の親として、子ども達が地域に誇りと愛着を持ち、都会に出ても帰ってきたいと思えるように、持続可能な地域づくりを進めていきたいと考えています。

ジオパーク活動は、トップダウンではなく地域住民や関係住民の方々の積極的なボトムアップ活動によって推進すべきとされています。若輩者ではありますが、皆様と共に歩みながら、地域の夢を語りあえたらうれしいです。

このたび、苗場山麓ジオパーク振興協議会の会長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

私は津南で生まれ、豊かな自然と地域の人々に温かく見守られ育ちましたが、大学進学後は地元を離れていました。2011年3月12日の長野県北部地震で大きな被害があったことを知り、津南に恩返ししたいという思いを胸に帰郷しました。

以来、より多くの地域の方々と触れ合う中で、それまで知らなかった地域の良さをたくさん教えていただきました。上村憲司前会長の強い思いが実り、津南町と栄村で苗場山麓ジオパークの認定を受けてからは、ジオサイトめぐりにも参加させていただきました。苗場山麓の大地の成り立ちをより深く理解でき、雪国に育つ動植物とそこに住む人々の歴史・文化がとても魅力的であることを実感しました。素晴らしい先輩ガイドのご指導の賜物で、2年前にジオガイドにも認定いただきました。まだまだ未熟ですが実際にガイドとして案内したこともあります。

苗場山麓ジオパークには多くの方から知って頂きたい素晴らしいジオサイトが数多くあります。そんな中で私は見倉の風穴が特に好きです。ここでは隙間から噴き出す冷風で、周辺に氷河期時代からの植物がわずかながらに残っているという、か弱くも力強い自然の力を知ることができます。風穴では安易に周辺の草刈りをするだけで、生態環境を変え、取り



見倉の風穴
(生態系を守るため現在立ち入り制限をしています。)

栗原 悠



心友懸走会による苗場山麓ジオパーク応援企画「津南の好きなところはどこですか？」



今年の津南まつりでも、陸上クラブの「心友懸走会」に地元中学生が加わり3チームに分かれ、全集落をつなぐリレーマラソンを朝からスタートしました。

各集落では、迎えてくれた住民の方々に苗場山麓ジオパークの代表的なジオサイトのパネルを見せながら「津南の好きなところはどこですか？」という質問に答えてもらいました。「行ったことある!」「栄村の方はまだ行ったことがないから行ってみたい」など、子どもからお年寄りまでたくさんの方が答えてくれました。メンバーによると、ほとんどの方がジオサイトについて知っており、この大地を自慢に思っていることが感じられたそうです。酷暑の中、頑張ってくれた心友懸走会、また中学生の皆さん、お疲れさまでした。



津南観光物産館とジオパーク

津南観光物産館は、信濃川の右岸、国道117号線沿いにあります。

館の入り口には、「ようこそ、苗場山麓ジオパーク」の文字が見え、地元の野菜、お米、お菓子、お酒、工芸品など様々なお土産が揃っています。



また、駐車場には、苗場山麓ジオパークの総合案内看板や国指定史跡沖ノ原遺跡から出土した火焰型土器のモニュメントが設置されています。そして、店内には、2011年3月12日(土)午前3時57分に発生した震度6弱を記録した長野県北部地震の時間に止まった時計が飾られています。今も、地震災害の記憶を風化させないためにお店の片隅で地震が起こったことを伝えています。



新潟県立津南中等教育学校科学部との連携



新潟県立津南中等教育学校では、昨年からは1年生に苗場山麓ジオパークを紹介する座学と現地巡検を行っています。

その中で、科学部では今年の8月4、5日に苗場山登山を行うということで、中沢英正専門員から苗場山とその周辺の植生について講義をし、登山前の学習を行いました。

また、科学部員には、今年、アンケート調査を行いました。それによると、アンケート結果では、津南町出身者やジオパーク学習を経験した生徒はジオパークのことをより詳しく知っていることがわかり、学校との連携と出前授業などの重要性がわかる結果となりました。今後は、登山の状況をま

とめて、報告を行ってもらうとともに苗場山麓ジオパークと科学部でどのような連携を行っていけるか、意見交換会を開催する予定です。



ジオガイド研修 ～リスクマネジメントワークショップ～

6月24日(日)、町総合センターでガイド向けのリスクマネジメントに関する研修会を実施し、ジオサイト等を案内する際、リスク管理をどのようにするか参加者で検討をしました。

石落し〜見玉公園でのガイドを想定し「リスクの発見→リスクマップの作成→リスクに対する対応策を探る→事故が起きたときの対応」の手順で付箋を使ったワークショップを開催しました。参加者は16人。今回の研修を元にし、苗場山麓でもガイド向けリスクマネジメントの冊子を早急に作成し、お客様の安心安全につながるよう活動していきたいと考えています。



認定ジオガイド
が伝える

桑原健次さん撮影
天水山の樹氷

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

桑原健次さん



山伏山に思いをはせる（ガイド No.2 桑原健次）



山伏山はジオサイトの中でも最も興味を魅かれる場所です。関田山脈は約220万年前から150万年前に陸化し、山伏山は約80万年前に火山活動により関田山脈の南端部の一部として標高903mまで隆起しました。魚沼層群を突き破り山体の中心に溶岩が貫入し、冷え、方向は上下（地面と天）からでなく周囲からで、その結果「石落し公園」のように縦の柱状節理にはならず横の板状節理となりました。一辺が70から80cmくらいの規則正しく正方形か五角形の形をしており、まるでベテランの石工さんが切ったように見えます。キャンプ場や薬師湖から確認することができます。節理の方向や傾きは少しずつ異なります。山体の南側から西側にかけてブ

ナ林やトチノキ、クロモジ、モミジ、カエデ類と土で覆われて節理は見えません。登山道の脇に落ちている岩石は角がとがっており風化や浸食具合は進んでおらず、時折角張った岩石の隙間から冷たい風が気持ちよく吹いてきます。寒冷地だけに生息する貴重な植物もあります。

8月に登っても山全体がなんだか涼しく感じますので、足どりはかるく、鼻歌が出そうになります。が、いい齢なのでそんな事は致しません。

山頂から100メートル下った標高780メートル付近には周囲一帯に石の積まれた跡があります。明治39年完成で風穴を利用した中魚沼郡最大の養蚕卵保管施設があったところです。石積み

の底では8月中旬に係わらず7℃を計測することができます。外気を遮断する覆いをすれば5℃は下がるかもしれません。

外気28℃なのに一桁の温度。私はエアコンを販売する仕事をしておりますが信じられないことです。富岡製糸場の「荒船風穴」や上高地途中の「風穴の里」もこんなに温度は下がるのでしょうか。

冬には羽倉・寺石・上野地区とも山伏山周辺は他の集落より積雪が多いと言われています。雪や雨でしみ込んだ水分が山伏山の山体深く氷の状態を維持し、南斜面の空気が取り込まれ、節理に熱交換器のような働きをさせて出口まで運ばれるのでしょうか？本当に冷たい風が吹いているのです。山体自体はそう大きくないので、地表に出ていない節理がまだどこかに大量に隠れているかもしれません。

山伏山風穴の駐車場からは三方向の道路があり、マンパク方面と無印良品キャンプ場（人気全国第三位になった事がある）方面、そして信越トレイルの最南端「天水山」の登山口へ続く道です。車を降りて松之山方面に向かい、道路左側にある取り付き登山道は落ち葉が重なり合ってフカフカ状態で、ブナの純林が発するマイナスイオンや、フィトンチッドでストレスが逡減するか、もしくは解消します。急坂ですが楽しんで登れます。



早春の天水山（1,088m）周辺は樹氷をよく見かけます。寒気が入り快晴の天気予報が出たら、早起きをして山スキーかスノーシューで出かけます。そこは宝石箱をひっくり返した様な光景を目にすることになります。

山伏山山頂からは苗場山や信越の名山が望め、千曲川・信濃川右岸の各山城（今井城、赤沢城など）があったと思われる斜面が見えて、戦国時代に思いを馳せる場所としては最高です。山頂に「信濃の国 山伏やま」と読むことができる石碑があるので、当地は御館の乱の影響を含め、何度も支配者が変遷したものと思われます。



風穴の手前にある石のテーブル側からみた様子。風穴の上の雪は特別大量とか固いとかは感じられません。（2017年6月20日撮影）

❁ すみれ工房の活動について

今年もたくさんの人々を笑顔にした津南ひまわり広場。そこで毎年行われているカカシコンテストに以前「中子のかかし家族」さんが作られた昔マンモスのカカシが出展されました。現在そのマンモスはなじもんで譲り受け、芝生広場で皆さんをお出迎えしています。マンモスの毛はスギの葉を金網のベースに刺したもので、毎年すみれ工房の皆さんによって葺き替えをしていただいています。春に間伐したスギの葉で葺き替えるのですが、



はじめは緑色の葉が、日が経つごとに茶色に変色していき、まさにマンモス!という具合になります。今ではジオパークのシンボルとなって、一緒に写真を撮るお客様の姿をよく見かけます。

すみれ工房では、日頃から24人の利用者の皆さんが笑顔を絶やさず、誠意一杯のおもてなしの心を注入して、トイレトペーパーにジオパークの宣伝用紙を巻いたり、古新聞で手提げバックを制作したりと苗場山麓ジオパークの活動に協力してくださっています。

❁ 突撃しよう! とんりのジオ便り～糸魚川ジオパークからこんにちは～



フォッサマグナパーク (リニューアル後)

フォッサマグナとは、その昔、日本列島がアジア大陸から離れるときにできた巨大な裂け目です。フォッサマグナの西端には、日本列島を東西に分ける大断層「糸魚川ー静岡構造線」が通っており、今年8月にリニューアルオープンしたフォッサマグナパークでは、その断層露頭を見学することができます。

ところで、糸魚川ー静岡構造線は、地質的に日本列島を東西に分断しているだけでなく、文化も東西の境目となっていることをご存じでしょうか?例えば、灯油を入れるポリタンクの色。糸魚川を境に、東日本では赤色のポリタンクが多く普及していますが、西日本では、青色のポリタンクを使っている地域がほとんどです。他にも、お正月に食べるお餅の形やおにぎりの呼び方、電気の周波数などなど、糸魚川は東西文化の境目となっているのです。

では、なぜそのような現象が起きたのでしょうか?それは…実際に糸魚川ジオパークに遊びに来て、確かめてみてください!

糸魚川ジオパークは、新潟県の最西端にあり、苗場山麓から車で約2時間かかるところにあります。5億年前のヒスイの誕生から始まる幅広い年代の地質や、日本海から北アルプスまで3,000m級の標高差のある急峻な地形、そこに生息する多種多様な動植物をご覧ください。また、世界最古のヒスイ文化や、上杉謙信から竹田信玄への「義塩」の故事が伝わる塩の道・松本街道など、日本列島の生い立ちと豊かな自然、そこに暮らす人々と大地の関わりがわかるジオパークです。

糸魚川ジオパークは平成21年に日本初の世界ジオパークに認定され、平成27年に世界ジオパークがユネスコの正式プログラムとなってからは、糸魚川ユネスコ世界ジオパークとなりました。

今回は糸魚川ジオパークの大きな特徴である「フォッサマグナ」についてご紹介します。

